

企画展「朝鮮通信使と岡山藩の儒学者たち」 を開催します

日本との交流のため、江戸時代に朝鮮国から訪れた使節、朝鮮通信使らを、沿路の諸藩が接待しました。当館にも、牛窓港で使節を迎えた岡山藩の儒学者たちの詩文など関係記録が所蔵されています。それらを展示し、国を超えた人々の交流と友情を紹介します。

1 日時

令和6年11月21日(木)～12月28日(土)

※毎週月曜日は休館

開館時間 10時～18時(木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール前 展示コーナー(北区二日市町) 入場無料

3 内容

- ・豊臣秀吉は朝鮮国へ侵攻しましたが、徳川幕府は善隣関係の回復と維持に務め、将軍の代替わりごとに朝鮮国から使節を迎えることが習わしとなりました。
- ・幕府は沿路の諸藩に一行の旅の円滑と接待を命じたので、岡山藩でも牛窓港を整備し、ここで使節と随員の大船団を迎えて饗応が行われました。
- ・そのときは漢文に通じていて筆談ができた藩の儒学者たちが文通の役を務めました。とみたげんしん富田元真、おほらだいじょうけん まついからく わだせいさい小原大丈軒、松井可楽、和田省斎ら岡山藩の気鋭の学者たちは朝鮮の使節と学問の問答を交わし、彼らからも一目置かれて深い友情を育んでいます。当館には彼ら儒学者の自筆稿も多数所蔵されており、その中に含まれる牛窓港で朝鮮使節と交わした漢詩文集をまとめて展示します。

4 関連講座

令和6年12月8日(日) 14～16時 「岡山市立図書館の朝鮮通信使関連資料」

会場は、岡山市立中央図書館 2階視聴覚ホール 先着60名(申込不要)

聴講無料 講師:飯島章仁(当館学芸副専門監)

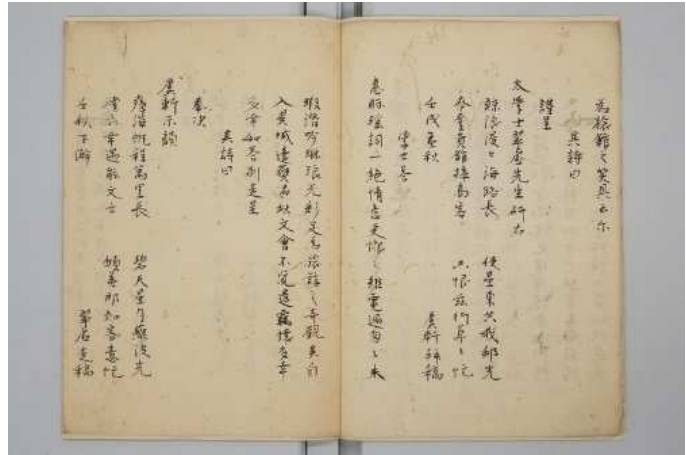
【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・沖田 直通086-223-3373

おもな展示品

富田元真^{ぎゅうそうし}『牛窓詩』

岡山藩では池田光政から綱政に代替わりした後の、天和2年(1682)の通信使来訪時の記録です。この書には儒学者で文通の役にあつた富田元真(虞軒)が、使節と交互に詠みあつた漢詩文が記されています。



小原大文軒^{ぎゅうかんひつき}『牛館筆記』

同じく天和2年のときのもので、開いた箇所には、乾魚(鯛、海鼠)、巧菓、魯酒などとあり、正使と副使へ呈上された贈り物の内容が記されています。



小原大文軒^{ぎゅうそうし そう}『牛窓詩藻』

正徳元年(1711)の記録です。冒頭は、幕府(江府)の命で接待を仰せつかった岡山藩主(少将君)が、下津井から牛窓までの海域を担当し、客館を設けて準備し(牛窓に到る諸士百余、僕従幾千人、役夫はその数を知らず)、松井可楽と山田楽々子と私(予)が文通の用に招請されたことから書き出されています。しかしこの年は使節の到着が遅れ、暇を慰めるために3人で交わした漢詩が記されています。

